

開設5年を経て、いつのまにかメディアコスモスのことを子どもも父も母も「メディアコス」と愛称で呼ぶ方がたくさんになりました。本当にうれしい限りです。

単にひとが集まるだけでなく、岐阜の魅力と可能性を掘り起こしながら、まちに対する「シビックプライド」、愛着や誇りをみなさんと高めていくために、メディアコスはこれからどんな役割を果たせるのだろうか。

岐阜にいま足りないものはなんだろう。

デザイン？アート？編集？みんなが集まりホッペで話す機会？ひとのつながり？歴史の掘り起こし？

みなさんといっしょに、この連続講座を通してメディアコスがさらにバージョンアップするための

アイデアや考えを集めてみたいと思います。

ぎふメディアコスモス 総合プロデューサー 吉成 信夫

ぎふの魅力と可能性を伝える方法を学ぶ。シビックプライド講座

みんなで考える、

わたしたちとメディアコスの

コレカラ

第1回

都市が元気になるために。

-シビックプライドセンターとしてのメディアコスの可能性-

2020.10.18 (日)

【場 所】 みんなの森 ぎふメディアコスモス 1FDキドキテラス

【時 間】 14:00~16:00 (開場は13:30)

【定 員】 50名 (ZOOMで参加することもできます) ・参加無料

【申込方法】 令和2年10月15日(木)までに、Eメール (g-mediacosmos@city.gifu.gifu.jp) または電話 (058-265-4101)、もしくは1F総合案内にお申し込みください。ZOOMでの参加を希望される方は申込みの際にその旨お伝えください。

〈出 演〉

〈進 行〉



伊藤 香織

(東京理科大学 理工学部建築学 教授)



太田 剛

(編集工学機関GEAR 代表)



蒲 勇介

(NPO法人 ORGAN 理事長)



吉成 信夫

(ぎふメディアコスモス 総合プロデューサー)

東京生まれ。東京大学工学部工学系研究科博士課程修了。博士(工学)。東京大学大学院工学系研究科センター助手を経て、現在東京理科大学教授。専門は、都市空間の解析とデザイン。著書に『シビックプライド』:都市のコミュニケーションをデザインする、『シビックプライド2 国内編』:都市と市民のかかわりをデザインする。(官公庁版)『まちづくり』:まちを生きかす36のモノづくりコトづくり。(民間版)など。2002年から東京ビジュアルクラブを共同主宰し、公共空間の創造的利用促進のプロジェクトを国内外の都市で実施。

1965年生。筑波大学都市計画、明治大学農学部(応用昆虫学)卒業。高校生物教員を経て、90年に編集工学研究所(現創設研究所)入社。メディア制作から企業の事業戦略、自治体の観光戦略・ICT化・地域おこし、システム研究開発など、編集工学を応用したプロジェクトを行うGEAR事業部を統括。2012年に独立して編集工学機関GEARを設立。図書館と地域をむすぶ協議会を立ち上げ、新しい図書館づくりで全国を奔走中。愛読書『大友政樹』。

1979年9月28日生まれ。NPO法人ORGAN理事長。那覇市出身。何もないと思っていった地・岐阜市で出会った「あうち」とその復活プロジェクトをきっかけに、長良川流域のまちづくりと岐阜和傘・蓑行などの伝統工芸を学び出すという物語に出会う。以来長良川流域の観光まちづくりに取り組む。2018年度より観光庁日本版DMO法人に登録。長良川パートナー・和傘CASAなどの販売拠点を設け、流域の基盤づくりの新しい手探りを行う。

1956年、東京生まれ。コンサルティング会社などを建て、96年にNPO法人に移行。石と賢治のユートピア研究会を経て、2001年に美濃校を利用した『森と島のつごう』を創設。03年から07年、若手系立憲館の初代館長を務めた。NPO法人若手系立憲館研究所理事長。15年より岐阜市立図書館の館長を務め、20年より現職。